

(別記)

陸別町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は北海道東部のほぼ中央に位置し、酪農が基幹産業で耕地面積の約9.5%が牧草・飼料用トウモロコシの作付となっている。数年前に比べると小麦及びてん菜の作付面積は拡大傾向にあるが、畑作専業農家数は少なく、また、高齢化も進んでおり畑作物の作付面積の拡大を図ることが難しいのが現状である。当該地域は酪農地帯であるため、酪農地帯にあった輪作体系の構築を図る必要がある。

2 作物ごとの取組方針

町内の畑地について、酪農地帯にあった輪作体系を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持を図ることとする。

(1) てん菜

湿害対策や土壌診断に基づく施肥設計の実施により生産数量の確保を図るとともに、直播栽培の導入により省力化の推進を図る。また5年後においても現行の作付面積を維持する。

(2) でん原用ばれいしょ

湿害対策の実施や土壌診断に基づく施肥設計を実施する取組、また省力的作業機械等を活用していくことで、5年後においても現行の作付面積を維持する。

(3) 不作付地の解消

不作付地は存在しない。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成25年度の作付面積 (ha)	平成28年度の作付予定面積 (ha)	平成30年度の目標作付面積 (ha)
てん菜	43	80	80
でん粉原料用馬鈴しょ	5	5	5
麦	190	193	195
大豆			
飼料作物	4069	4069	4069
そば	8	3	3
なたね			
その他地域振興作物			
野菜			
・			
・			
・			

4 平成28年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成25年度 (現状値)	平成28年度 (予定)	平成28年度 (目標値)

※「分類」欄については、要綱(別紙11)の2(5)のア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。
(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか1つ記入して下さい。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、()内に、数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

※畑地の面積は含めないこと。

※28年度の支援の有無の欄は、産地交付金による助成を行う取組は「有」を、助成を行わない取組は「無」を記載する。